

歴史・伝統文化を 伝え継ぐ

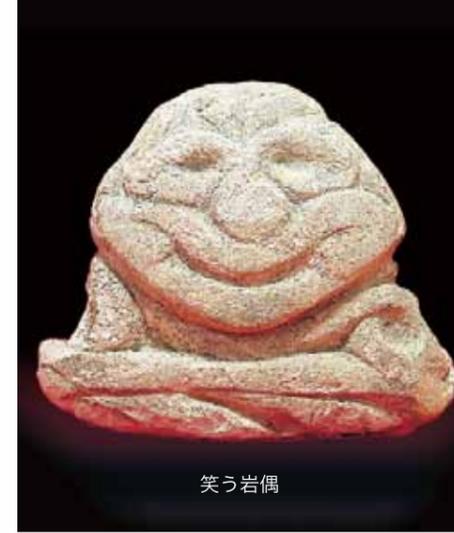


遺跡全景

国指定史跡 伊勢堂岱遺跡 世界文化遺産

縄文時代後期(約4,000年前)の環状列石を主体とする遺跡で、これまでに4つの環状列石をはじめ、配石遺構、掘立柱建物跡、土坑墓、柱穴などが検出されています。直径30メートル以上の環状列石が4つも集中するのは他に例がなく、学術的価値も高いことから、平成13年に国の史跡に指定されました。

そして、令和3年に伊勢堂岱遺跡を含む17の遺跡「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界文化遺産へ登録されました。



笑う岩偶

綴子大太鼓 世界一の和太鼓

国選択記録 無形民俗文化財

今から700年前に始められた伝統行事「綴子大太鼓祭り」は毎年7月14日、15日に徳川、豊臣側に分かれた上町と下町の2つの集落が交代で綴子神社に大太鼓を奉納し、虫追いや雨ごい、五穀豊穡を祈願しています。

起源は古く、綴子は耕地が広大なのに比べ、水源と水路の便が悪く、常に耕地の灌漑用水不足に悩み、太鼓の音を雷鳴に似せ祈りを籠めて雨を祈願しました。雨ごいの神事として始められたと伝えられています。

大太鼓は直径3.71メートルのものが、平成元年に世界一の和太鼓として、ギネス世界記録に認定されています。

旧阿仁鉱山外国人官舎 (異人館) 国指定 重要文化財

明治15年(1882)に、明治政府(工部省)により阿仁鉱山に派遣されたドイツ人技師アドルフメッケルら外国人技術者の宿舎として建てられたものです。

現存する建物は、当時建てられた2棟の官舎のうちの1棟であり、もう1棟は昭和28年(1953)に焼失しています。

建物は東北地方の中においても古い煉

瓦造建築で、住宅としては全国的に見ても古いもので、秋田県における最初の洋風建築であるとされています。

明治初期の殖産興業時代の工部省の広範囲な活動を示すものとして重要な建物であり、阿仁鉱山における産業の近代化の一環を担った施設としても注目されています。



根子番楽 国指定 重要無形民俗文化財

根子番楽は、歌詞の内容が文学的に優れていることと、舞の形式が能楽の先駆を成す幸若舞以前のものであることが称賛されています。舞はテンポが速くリズムカルな囃子に合わせる勇壮活発な武士舞と古雅で静かなリズムが特徴の古典的舞の2つに大別されます。根子集落に伝わる伝説では、源氏の遺臣あるいは平家の落人たちが根子に移り住んで番楽が行われるようになったとされています。

